


鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークの取組状況














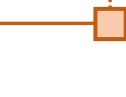



鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク

- 2023年2月に「鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会」を設立した。また、2023年7月に「生息環境づくりワーキング」と「地域・人づくりワーキング」を設置して検討を進めている。

指標種・シンボル	<p>◇鳴く虫：古来より人々に親しまれ、地域の歴史、文化、生活とかけわりがあるマツムシ、スズムシ、クツワムシなどの昆虫</p> 
対象地域	<p>◇京都市内の桂川(三川合流部から渡月橋上流まで約18km)とその支川の流域 京都市の市街中心部が主な対象範囲</p>
目的	<p>◇鳴く虫を指標とした桂川流域の生態系ネットワークの形成を通じた、生物多様性の維持・回復、人と自然のかかわりの再構築及び鳴く虫文化の継承</p>
推進体制	<p>◇協議会、生息環境づくりワーキング、地域・人づくりワーキングを設置して取組を推進 ◇協議会には、学識者、自治体(京都市)、行政機関(京都府・国の関係部署)、企業・団体等が参画</p> <div style="margin-left: 40px;"> <p>協議会『鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会』 ◇全体構想の策定、各主体の取組に関する情報の共有</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>ワーキング『生息環境づくりワーキング』 ◇桂川流域における鳴く虫の生息に適した環境の育成や管理の手法の検討</p> <p>ワーキング『地域・人づくりワーキング』 ◇桂川流域における鳴く虫を活かした地域・人づくりの手法の検討</p> </div> </div>

協議会・ワーキング等の開催状況

- 協議会、ワーキングで意見交換しながら、取組を進めている。また、地域・人づくりにあたっては、桂川・嵐山地区の地域団体の方々と情報を共有しながら、取組を進めている。

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
協議会	 第1回 2023.02.20	 第2回 2024.03.05	 第3回 2024.12.20	 第4回 2025.11.6
生息環境づくり ワーキング		 第1回 2023.07.04  第2回 2023.12.19	 第3回 2024.8.2  第4回 2025.2.21	 合同開催 2025.12.4
地域・人づくり ワーキング		 第1回 2023.07.03  第2回 2024.01.17	 第3回 2024.7.24  第4回 2025.2.5	 合同開催 2025.12.4
桂川・嵐山地区 地域団体との 情報共有		 現地案内会 2023.09.26  座談会 2023.12.11		 意見交換会 2025.8.20
主な取組 (イベント等)			【生息環境づくり】 <ul style="list-style-type: none"> ・京の虫の音レコーディング2024 :2024.8.20～10.31 ・虫の音レコーディング in 京都御苑 :2024.9.14 ・「きょうと☆いきものフェス！2024」ブース出展 :2024.9.28、9.29 【地域・人づくり】 <ul style="list-style-type: none"> ・桂川・嵐山地区 虫の音ガイドツアー :2024.9.21 ・鳴く虫の解説板(案)の試用 :2024.9.21 ・鳴く虫の採取の試行 :2024.6.24 	【生息環境づくり】 <ul style="list-style-type: none"> ・京の虫の音レコーディング2025 :2025.7.20～10.31 ・「きょうと☆いきものフェス！2025」ブース出展 :2025.9.27、9.28 ・きょうと生物多様性センター交流オフィスでの展示 :2025.8.25～10.23 【地域・人づくり】 <ul style="list-style-type: none"> ・桂川・嵐山地区 虫の音ガイドツアー :2025.9.13、9.21

第3回鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会

● 第3回鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会の開催概要

■ 日時：2024年12月20日（金）09:30～11:15

■ 場所：京都経済センター 3-F会議室

■ 議事：

- ①鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークの取組状況について
- ②今後の進め方について

■ 主な意見：

全般

- 試行期間を経てのテイクオフ（発展期）の形が少し曖昧である。試行段階でどこを目指すのかを明確にした方がよい。
- 鳴く虫を指標種・シンボルとした生態系ネットワーク形成の取組を、企業等に知っていただくことが重要である。
- 人々が身近な場所に虫がいることに気づいて、楽しむ人が増えて、文化として、次の世代に受け継がれていくことが重要である。

生息環境づくり

- 市民参加型の取組は、公園以外の身近な緑地にも対象を広げ、参加者も増やしていけるとよい。
- 市民参加型の取組で得られたデータから作成された鳴く虫の分布図は公開されるとよい。
- 鳴く虫の分布情報をもとに、ギャップのある場所を埋める形でネットワークを形成していけるとよい。
- 鳴く虫は、企業緑地の価値の指標の一つになり得る。
- 民間事業者を対象に、鳴く虫の生息環境の保全・再生の手引書を使った講習会等を実施していくことも考えられる。
- 鳴く虫を含めた様々な生きものがくらす環境がすばらしいという意識の醸成を進めていくことが必要である。

地域・人づくり

- ガイドツアーは、プログラムを練り上げていくとともに、ガイド育成やガイドツアーを運営するプラットフォームを考えることが必要である。
- ガイドツアーは、どのような解説・体験に重きを置くと、さらに多くの方が満足できるプログラムになるかを考えるとよい。
- 外国人旅行者の鳴く虫に対しての感じ方に応じて、ガイドツアーで解説する内容も変わってくることが考えられる。
- 嵐山の地域の方々や企業の方々とどのような取組ができそうか意見交換をできる機会があるとよい。



第4回生息環境づくりワーキング

● 第4回生息環境づくりワーキングの開催概要

■ 日時：2025年2月21日（金）10:00～11:30

■ 場所：オンライン会議

■ 議事：

今後の生息環境づくりの取組について

- ・ 鳴く虫の生息環境の保全・再生の手引書
- ・ 鳴く虫の生息環境の保全・再生の取組の試行
- ・ 市民参加型の取組の試行
- ・ 企業等との連携の検討
- ・ 普及啓発・情報発信

■ 主な意見：

全般

- 生息環境づくりの取組と地域・人づくりの取組を連動していけるとよい。
- 試行的な取組を重点的に行っていくモデル地区を設定した方がよい。
- 東本願寺・渉成園や京都に特有な社寺仏閣の緑地に鳴く虫がいるのであれば、社寺仏閣も巻き込むことができるとよい。
- 舗装されている場所を草地に変えることで、雨水浸透の能力が上がり、流域治水に貢献する。水源涵養もできるので、利水にもつながる。浸透面が増えれば、気化熱等も出るので暑熱緩和にもなる。
- 手引書のみで実施する場合に、困った時の問い合わせ先があった方がよい。
- ムーブメントとして広げていくためには、面白くてついやってしまうようなものを生み出す必要がある。
- 鳴く虫インストラクターのような人材の育成が必要ではないかと思う。

市民参加型の取組の試行

- 市民参加型の取組について、特に学校等に広報されるということであれば、ギリギリを探すことは昼間にできるので、学校でも取り組みやすいと思う。

企業等との連携の検討

- 協議会には、多くの金融機関に参加していただいているので、そのネットワークを上手に使えるとよい。



第4回地域・人づくりワーキング

● 第4回地域・人づくりワーキングの開催概要

■ 日時：2025年2月5日（水）14:30～16:00

■ 場所：京都市右京区役所 大会議室2

■ 議事：

今後の地域・人づくりの取組について

- ・ガイドツアーの内容の修正・拡充、試行
- ・ガイドツアーのプラットフォームの検討
- ・地域や企業の方々との意見交換
- ・外国人旅行者への対応の検討
- ・鳴く虫ガイドマップの作成

■ 主な意見：

ガイドツアー

- ガイドツアーの試行については、参加者に楽しんでもらえるツアー内容になっているかをモニタリングすることが重要と思う。
- ガイドブックは、虫の音を素材としたガイドや環境教育、企業研修ができる人を育成するためのテキストとした方がよい。
- 一般、学生、子ども、外国人と様々なターゲットはあるが、いずれにしても、素材を理解しておかなければならない。素材について、しっかり学んだ上で、工夫してもらえるガイドを育成することが重要と思う。
- ガイドを育成し、ガイドが活躍する場を提供するプラットフォームをつくることが重要である。

地域や企業の方々との意見交換

- 地域の人との意見交換を継続的に実施することで、地域の人たちが、地元の鳴く虫を地域の誇りとしてとらえ、子どもたちの地元での原体験になるような展開を見据えていくとよい。
- 企業の敷地内で緑を増やす活動のような展開が見込める。ヒアリングの機会をつくって、少しでも取組に参加いただくとよい。

外国人旅行者への対応の検討

- 外国人は、昆虫自体には興味がないかもしれないが、虫の音が歌に詠まれていたことなど歴史、文化には関心があるだろう。
- ガイドツアーは、まずは日本の方が対象となると思うが、外国人旅行者も対象に検討が進められるとよい。

鳴く虫ガイドマップの作成

- 鳴く虫に関して、一般の人に配布できる資料があるとよい。



2025年度の取組について

- 第3回鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会、第4回生息環境づくりワーキング、第4回地域・人づくりワーキングでの意見も踏まえ、2025年度に下記の項目を検討・試行することとした。

■ 生息環境づくり

手引書の作成	➤ 大宮交通公園(都市公園)、東本願寺・渉成園(庭園)の2箇所において、土地所有者・管理者が実施する取組のモニタリングを行い、結果を整理して、手引書に事例として追加する。
市民参加型の取組の試行	➤ 2024年度の市民参加型の取組の結果を踏まえ、対象とする場所や実施時期を拡大して、市民参加型の取組を行う。
普及啓発・情報発信	➤ 「きょうと☆いきものフェス！2025」にブースを出展し、来場者へ取組の普及啓発・情報発信を行う。 ➤ きょうと生物多様性センター交流オフィスにおいて展示を行う。

■ 地域・人づくり

ガイドツアー	➤ 2024年度のガイドツアーの試行で得られた改善点及び地域・人づくりワーキングでの意見を踏まえて、ガイドツアーの内容を修正・拡充し、試行する。 ➤ ガイドツアーの内容の検討・試行にあたって、観光の有識者へのヒアリングを行う。 ➤ ガイドツアーの試行結果を踏まえ、鳴く虫を素材としたガイドツアー実施のためのテキスト(案)の更新を行う。
ガイドマップの作成	➤ 鳴く虫の解説板(案)をもとに、桂川・嵐山地区に訪れる旅行者が手に取って使える「鳴く虫ガイドマップ」を作成する。 ➤ 外国人留学生へのヒアリング結果を踏まえ、英語表記を検討する。
外国人旅行者への対応の検討	➤ 外国人旅行者を対象としたガイドツアー等の内容の検討にあたって、外国人留学生へのヒアリングを行う。 ➤ 鳴く虫の解説板(案)の英語表記を検討する。
地域の方々との意見交換	➤ 嵐山の地域の方々とどのような取組ができそうか意見交換を実施する。

■ 共通

企業との連携の検討	➤ 企業等と連携して取組を展開するために、ヒアリングや現地確認等により情報を収集する。
プラットフォームの検討	➤ 今後の生態系ネットワーク形成の取組を推進するためのプラットフォームを検討する。

2025年度の取組 [報告]

● 生息環境づくり：鳴く虫の生息環境の保全・再生の手引書の作成

取組のモニタリング

- 大宮交通公園（都市公園）、東本願寺・渉成園（庭園）において、草地の管理を工夫している箇所のモニタリングを行った。



【大宮交通公園】

京都市が設置した都市公園で、指定管理者として大和リース株式会社が公園の管理を担っている。

低頻度での草刈り、高刈り、草の刈り残し（ススキ）といった管理の工夫が行われている。



【東本願寺・渉成園】

東本願寺の飛地境内地で、園内の管理は植彌加藤造園株式会社が担っている。

低頻度での草刈り、草の刈り残し（ススキ、コガマ）といった管理の工夫が行われている。

- 東本願寺・渉成園で開催された鳴く虫に関するイベントを支援した。

「名勝 渉成園で愉しむ夕暮れの虫の音会」

日時：2025年10月11日(土) 16:00～19:00



企業緑地の現地確認

- 日新電機株式会社、株式会社島津製作所、三菱自動車工業株式会社の協力を得て、企業緑地での鳴く虫の生息の現状把握を行った。



【日新電機株式会社】

京都市右京区の本社の緑地、研修センターの敷地内に整備されている雨庭で調査を行い、11種の鳴く虫を確認した。



【株式会社島津製作所】

京都市中京区の本社・三条工場の敷地内に整備されている島津の森などの緑地で調査を行い、12種の鳴く虫を確認した。



【三菱自動車工業株式会社】

京都市右京区の京都製作所京都工場の敷地内に整備されているビオトープなどの緑地で調査を行い、11種の鳴く虫を確認した。

手引書（案）の更新

- 2025年度のモニタリングや現地確認等の結果をもとに、「鳴く虫の生息に適した草地の管理・創出の手引き（案）」の更新を進めている。

2025年度の取組 [報告]

● 生息環境づくり：市民参加型の取組の試行、普及啓発・情報発信

市民参加型の取組の試行

- 聴き分けやすい5種（マツムシ、スズムシ、エンマコオロギ、キリギリス、クツワムシ）を対象として、京都市内で録音・投稿されたデータをもとに、マップを作成してウェブサイトで公開する取組を行った。

「京の虫の音レコーディング2025」

実施期間：2025年7月20日(日)～10月31日(金)

参加者：54名 投稿されたデータ：329地点

ウェブサイトの閲覧数：3,198回 閲覧者数：702人

YouTubeチャンネルの視聴数：30,337回 登録者数：24人

⇒京都市内の鳴く虫の生息情報を得ることができた。

取組の広報にあたって、下記の企業・団体との連携を図った。

株式会社京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫
日新電機株式会社、株式会社島津製作所、三菱自動車工業株式会社
株式会社バイオーム、きょうと生物多様性センター

普及啓発・情報発信

- イベントへブースを出展し、鳴く虫や鳴く虫文化、市民参加型の取組を紹介するパネルを展示した。

「きょうと☆いきものフェス！2025」へのブース出展

日時：2025年9月27日(土)・9月28日(日) 09:00～16:00

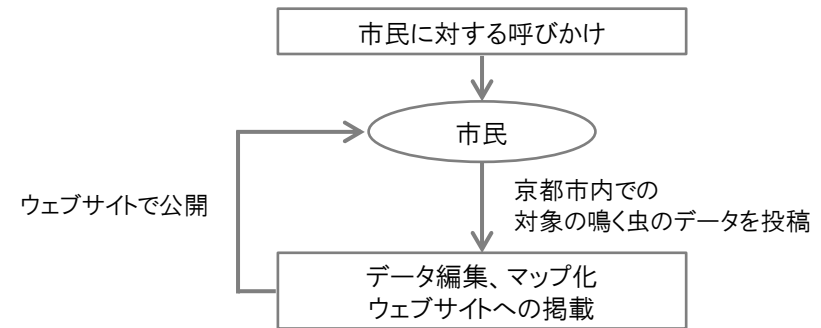
会場：京都府立植物園

主催：きょうと生物多様性センター

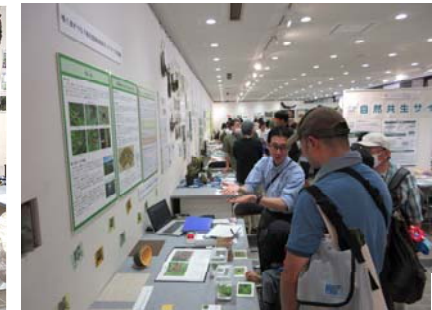
⇒2日間で645人の方々がブースへ来訪し、鳴く虫や鳴く虫文化について伝えることができた。

- きょうと生物多様性センターの交流オフィスにおいて、パネル等の展示を行った。

期間：2025年8月25日(月)～10月23日(木)



市民参加型の取組：「京の虫の音レコーディング2025」



「きょうと☆いきものフェス！2025」へのブース出展

ブース来訪者の主な意見・感想等

- ウェブサイトの鳴く虫マップを見て、京都市内にもマツムシやスズムシが生息していることを知った。これからは市内でマツムシやスズムシが生息できるとよいと思う。
- 鳴く虫にとって草地の環境が大事であることがわかった。
- 多種の鳴く虫の生息には草地の管理を工夫することが必要であるとわかった。
- 桂川の河川敷とともに、宇治川の河川敷のヨシ原や三川合流部などの草地も、鳴く虫にとって重要な環境ではないかと思う。
- 虫の音を聴くイベントがあれば参加したい。子どもたちにも虫の音を聴いてもらいたい。

2025年度の取組 [報告]

● 地域・人づくり：ガイドツアー

ガイドツアーの試行

○ 2024年度のガイドツアーの試行で得られた改善点を踏まえて、ガイドツアーの内容を修正・拡充し、一般の方々を募集して、ツアーを試行した。

「桂川・嵐山地区 虫の音ガイドツアー」

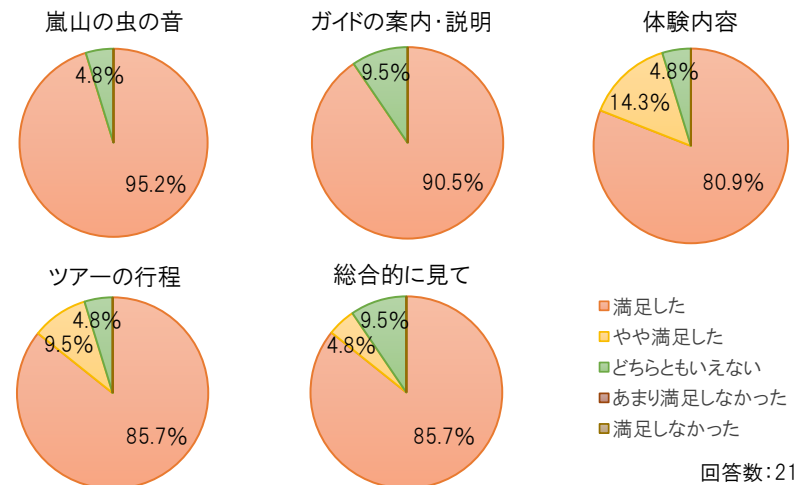
日時： 2025年9月13日(土)、 9月21日(日) 18:00～19:45

場所： 桂川河川敷 嵐山公園中之島地区～嵐山東公園

参加者：9月13日 10名 9月21日 11名 計21名

⇒ガイドツアー全体に対して肯定的な意見が多くあったことから、桂川・嵐山地区での大人を対象とした虫の音ガイドツアーの内容を磨くことができたと考えている。

参加者アンケート：満足度



テキスト（案）の更新

○ 2025年度のガイドツアーの試行、ヒアリングで得られた意見をもとに、「鳴く虫を素材としたガイドツアー実施のためのテキスト（案）」の更新を進めている。



「桂川・嵐山地区 虫の音ガイドツアー」

ガイドツアー参加者の主な意見・感想等

- 鳴く虫の生態にとっても興味が湧いた。
- 実際に自然の状態の虫を見ることができてよかった。
- 虫吹きなど大変貴重な体験ができてよかった。
- 虫の音を聴いて、気持ちを傾けるという行為はとても貴重で残すべき文化（風習）と思った。
- 鳴く虫の文化について、いろいろと知ることができてよかった。京都の自然の豊かさ、桂川周辺の自然がこれからも守られていって欲しい。
- 夜の虫の音にここまで、耳を澄ましたのは初めてで、とてもよい経験ができた。皆が草を大切にできたらよいと思う。
- よりよい自然の残し方を知りたいと思った。

2025年度の取組 [報告]

● 地域・人づくり：ガイドマップの作成、外国人旅行者への対応の検討

鳴く虫ガイドマップ（案）の作成

- 2024年度に作成した鳴く虫の解説板（案）をもとに、桂川・嵐山地区に訪れる旅行者が手に取って使える「鳴く虫ガイドマップ」の作成を進めている。ガイドマップは、日本語表記版と英語表記版を作成予定である。

外国人旅行者への対応の検討

- 2025年度のガイドツアーの試行へ留学生に参加いただき、ツアーの内容に対する意見を聴取した。また、留学生から、鳴く虫ガイドマップ（案）への意見を聴取し、英語表記版の作成を進めている。



鳴く虫ガイドマップ（案）

2025年度の実施計画 [報告]

● 地域・人づくり：地域の方々との意見交換会の開催概要

■ 日時：2025年8月20日（水）10:30～11:30

■ 場所：嵐山保勝会の事務所

■ 出席者：嵐山保勝会・嵐山まちづくり協議会・嵐山商店街 計5名

■ 議事：

- ・これまでの取組のふりかえり
- ・ガイドツアーについて
- ・鳴く虫の解説板、ガイドマップについて
- ・その他の活用について
- ・まとめ

■ 主な意見：

全般

- 嵐山のように観光スポット周辺に住宅地がある地域では、大勢の観光客が来ることが住民にとっては迷惑になってしまう。そのため、嵐山保勝会では、様々な事業で自治会とのつながりを大事にしている。地元住民と一緒に楽しむことが大事であると思う。
- じわじわと浸透させていくような方向でいくべきと思う。観光客を呼ぶことに注力すると本質から離れてしまうと思う。
- 少しでも鳴く虫文化に興味を持つ方を増やすことが重要と思う。将来的なことも考えると、小学校とも連携して、地域の子供たちを対象にイベントを実施するとよいのではないか。
- 鳴く虫と言えば嵐山のように、嵐山で鳴く虫が一般的になればよい。ぜひ広めたいと思う。地元向けにイベントなどを実施し、地域の方々に知ってもらえるとよい。
- 地域住民にも参加してもらい、嵐山で虫の音を聴くことが当たり前になり、嵐山の地元の人がやっていることを、観光客が体験したいと言って来るのが、本来の観光や文化の伝わり方と思う。イベントには、子どもだけでなく、大人にも参加してもらえると、様々なアイデアが出てきて、我が事になると思う。
- 来年にイベントを実施する場合には、嵐山保勝会や商店街、地域の自治会と連携して、情報を共有できるとよい。
- 地元の文化を継承していく取組であれば、私たちも協力していけると思う。

ガイドツアー

- 将来的には、嵐山の河川敷だけでなく、嵐山公園亀山地区など周辺でもガイドツアーを実施できるとよいと思う。

